



自家がんワクチン療法について

自家がんワクチン療法は、がんの術後再発予防、転移防止、残存がん治療を目的としたもので、がん細胞を特異的に攻撃する免疫細胞（細胞傷害性Tリンパ球）を体内で誘導することが可能です。化学療法とは異なり強い副作用がないため、高いQOLを維持できます。すでに肝臓癌では、アカデミックレベルながらランダム化比較対照臨床試験を実施しており、術後の再発抑制効果および延命効果があることを、統計学的有意差をもって証明しております（Clinical Cancer Research, 10, 1574-1579, 2004）。

また、治療が大変困難とされている脳腫瘍・多型神経膠芽腫に対しては、12例中CR（完全寛解）1例、PR（部分寛解）1例、MR（一部縮小）2例、NC（不変）1例、PD（進行）7例が確認されており（Cancer Science, 98:1226-1233, 2007）、CR例では6年経過時点で再発なしとの結果を得ております。消化器癌、乳癌等、その他の癌につきましても、ワクチン単独、放射線、低用量抗癌剤との併用で、転移巣の消失や腫瘍マーカーの減少等の有効性を示唆する症例が多数報告されております。これまで1000例以上の投与実績がありますが、副作用として報告されているものは、注射部位の発赤腫脹、一過性発熱等となっており、重篤な副作用はありません。

自家がんワクチンは、がん組織部位のみを集めておよそ2g以上あれば、ホルマリン固定組織、パラフィン包埋ブロックのどちらからでも作製することができます。また、ワクチン接種（原則として2週間間隔で3回）は外来通院が可能で、問診および前後の検査を含めても6週間と4日の治療期間で済みます。3回ワクチン接種後の検査を省略した場合は4週間と3日で終了します。

当社は、独立行政法人・理化学研究所の研究成果を基に、その臨床応用を目的として2001年に創立されたベンチャー企業です。自家がんワクチンについては、筑波大学など3大学と共同で臨床研究を行っております。また、京都・武田病院グループをはじめ、総合病院を含む全国50以上の医療機関で採用されており、そこでは自由診療ベースでがん治療が行われております。

自家がんワクチンに関するご質問がございましたら、お手数ですが当社までご連絡ください。

セルメディシン株式会社
代表取締役社長 大野 忠夫